

王さまと靴屋

新美南吉

青空文庫

ある日、王さまはこじきのようなようすをして、ひとりで町へやってゆきました。

町には小さな靴屋くつやがいつけんあって、おじいさんがせつせと靴くつをつくっておりまして。

王さまは靴屋くつやの店にはいつて、

「これこれ、じいや、そのほうはなんとという名まえか。」

とたずねました。

靴屋くつやのじいさんは、そのかたが王さまであるとは知りませんでしたので、

「ひとにものをきくなら、もつとていねいにいうものだよ。」

と、つつけんどんにいつて、とんとんと仕事をしていました。

「これ、名まえはなんと申もうすぞ。」

とまた王さまはたずねました。

「ひとにくちをきくには、もつとていねいにいうものだというのに。」

とじいさんはまた、ぶつきらぼうにいつて、仕事をしつづけました。

王さまは、なるほどじぶんがまちがっていた、と思つて、こんどはやさしく、

「おまえの名まえを教えておくれ。」

とたのみました。

「わしの名まえは、マギステルだ。」

とじいさんは、やっと名まえを教えました。

そこで王さまは、

「マギステルのじいさん、ないしよのはなしだが、おまえはこの国の王さまはばかやろうだとおもわないか。」

とたずねました。

「おもわないよ。」

とマギステルじいさんはこたえました。

「それでは、こゆびのさきほどばかだとはおもわないか。」

と王さまはまたたずねました。

「おもわないよ。」

とマギステルじいさんはこたえて、靴くつのかかとをうちつけました。

「もしおまえが、王さまはこゆびのさきほどばかだといったら、わしはこれをやるよ。だれもほかにきいてやしないから、だいじょうぶだよ。」

と王さまは、金の時計をポケットから出して、じいさんのひぎにのせました。

「この国の王さまがばかだといえぱこれをくれるのかい。」

とじいさんは、金づちをもった手をわきにたれて、ひぎの上の時計をみました。

「うん、小さい声で、ほんのひとくちいえぱあげるよ。」

と王さまは手をもみあわせながらいいました。

するとじいさんは、やにわにその時計をひつつかんで床ゆかのうえにたたきつけました。

「さつさと出てうせろ。ぐずぐずしているとぶちころしてしまうぞ。不忠者ふちゆうものめが。この国

の王さまほどごりっぱなおかたが、世界中にまたとあるかッ。」

そして、もつていた金づちをふりあげました。

王さまは靴屋くつやの店からとびだしました。とびだすとき、ひおいの棒ぼうにごつんと頭をぶつ

けて、大きなこぶをつくりました。

けれど王さまは、こころを花のようにあかるくして、

「わしの人民じんみんはよい人民だ。わしの人民はよい人民だ。」

とくりかえしながら、宮殿きゆうてんのほうへかえってゆきました。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

王さまと靴屋

新美南吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>